病児保育協議会
news
全国病児保育協議会ホームページ　http：//www.byoujihoiku.ne.jp

第58号
2011年(平成23年)1月1日
〔発行人〕　会長 木野　稔
〔発　行〕　全国病児保育協議会
〒535-0022 大阪府大阪市旭区新森4-13-17
TEL 06-6952-4778　FAX 06-6954-8621

ごあいさつ

全国病児保育協議会長　木　野　　稔

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、当協議会創立20周年ということで、東京における第20回記念大会が成功裏に開催され、また記念式典には厚労省雇用均等家庭児童局長の列席と長妻厚生労働大臣の祝辞をいただき、団体として大変光栄なことでありました。

さて、現在政府においては子ども子育てビジョンの元、昨年６月に子ども子育て新システム基本制度案要綱が発表され、その後ワーキングチームを設置して、平成23年通常国会へ法案提出、25年度の実施を目指して検討されているのは周知の通りです。社会全体で子ども・子育て支援を支えるという観点から社会全体（国・地方・事業主・個人）により必要な費用を負担するとなっていますが、恒久財源がどの程度確保されるかが前提としてあります。

また、幼保一元化、こども園の創設においても、法律上の位置づけの他、質（最低基準）の確保、直接契約による利用格差、市場原理の導入などの問題が指摘されています。いずれにせよ、仕事と家庭の両立支援のための多様な保育サービスが強化されることは間違いなく、病児病後児保育事業においても、こども園への看護師配置による体調不良児への対応、訪問型の新設検討など、我々協議会がこれまで目指してきた病児保育施設の拡充以上の展開が予想されます。今後、病児保育の質、特に保育看護という専門領域への関心がうすれることのないように注意しなければならないと考えています。９月の常任協議員会では、４つの委員会構成（広報、研修、調査研究、機関誌編集）が決まりました。さらに、協議会の組織力を高め、病児保育会員施設の質向上への活動支援を目的として、５つのプロジェクトチーム（ＰＴ）が結成されました。法人化ＰＴでは、団体としての発言力を高めるために新公益法人制度における一般社団法人格を取得するよう準備を進めます。自己評価基準ＰＴでは、多様化する本事業において施設基準を確立し将来的には協議会認証制度に進めることを目標としています。感染症対策ＰＴは、病児保育で常に必要となる感染症対策について、独自のガイドラインを作成してマニュアルに掲載すべく検討を始めます。協議会はこれまで、病児保育全施設で起こりうる事故への対策と予防啓発を行うべく、インシデント管理システムを標準化して普及するよう調査研究委員会を中心として取り組んできましたが、現在はまだその成果がでていない状況です。そのため、インシデント管理ＰＴにおいて、これまでの管理システム開発の経緯と問題点を検証し、ソフト開発方法およびその予算化について協議会として進めるべき方針を探ります。20周年記念誌ＰＴは、協議会20年のあゆみについて、病児保育の現場と利用者の声を中心に取り上げながら編纂することにしています。

今年は、当協議会も社会システムの変化に対応すべく成長しなければならない時期であります。協議会の事業運営が、効率的で透明性を高めたものとなるように努力する所存です。会員の皆様にはより一層のご理解ご協力をお願いいたします。

インシデント管理に関する報告

調査研究委員会委員長　羽 根 靖 之

1）インシデント管理に関するアンケート調査報告

８月に協議会加盟の全施設を対象に、インシデント管理に関するアンケート調査を実施致しました。回答に御協力頂きました施設数は９月５日時点で202施設（回収率44%）でした。

内訳は、医療機関併設型70%、保育園併設型17%、その他13%でした。アンケート結果の概要を以下に報告させて頂きます。

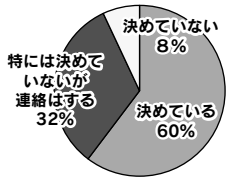
とても考えさせられる結果でした!!

アンケート内容で、事故発生時の連絡体制を決めている施設は60%（設問１）でしたが、事故の対応マニュアルまで作成している施設は48%（設問２）と半数以下でした。

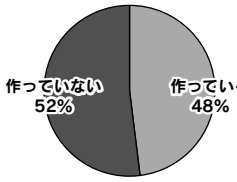
また、今回のテーマであるインシデントという用語の意味を理解されているとの回答は56%で、初めて聴いた言葉との回答も7%ありました（設問３）。さらに、インシデントに関する勉強会を一度も行っていない施設が14%（設問４）、研修を受けたことがない施設が58%（設問５）、協議会でインシデント管理システムのソフト開発をしていることを知らない施設が62%（設問６）、開発中のソフトのデモを体験していない施設が79%（設問７）という結果でした。

以上の結果は、調査研究委員会のインシデント管理システムのソフト開発での啓蒙努力が不足していたことにも一因はあるかもしれませんが、それ以前に、**インシデントそのものの基本的な周知や研修から見直すべきではないか**と考えさせられる結果でありました。

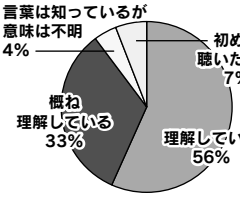
（設問１）貴施設では保育に関連した事故が発生した際の連絡網や連絡体制を決めていますか。



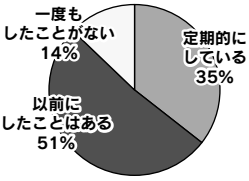
（設問２）貴施設では、保育に関連した事故発生時の対応マニュアルを作っていますか。



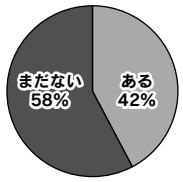
（設問３）インシデントという言葉の意味は理解されていますか。



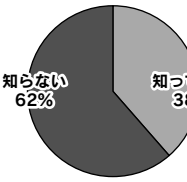
（設問４）貴施設でインシデントに関する話しあいや勉強会をしたことがありますか。



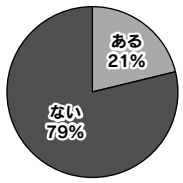
（設問５）協議会の全国大会やブロック研修会で、インシデントに関する研修を受けたことがありますか。



（設問６）協議会には現在開発中のインシデント管理システムのソフトがあることを知っていますか。

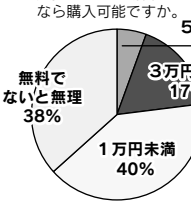


（設問７）協議会の全国大会などで、インシデント管理システムのソフトのデモを見たことがありますか。



その一方で、コンピューターやインターネットの環境整備は90%以上の施設で完備しており、インシデント管理システムの有用性を理解さえして頂ければ、ソフトの普及は困難ではないと期待できる結果でありました。さらに、費用的にも１万円以下であれば78%の施設が導入に前向きになって頂けるという回答でした（設問８）。

（設問８）ソフトを購入する場合に一部施設負担となった場合、いくらくらいなら購入可能ですか。



2）インシデント管理システムに関するプロジェクトチームの結成

以上の内容を受けて、９月の常任協議員会におきまして、今後のインシデント管理システムに関するプロジェクトチーム（以下ＰＴ）の結成を決定し、向田常任協議委員をチーフに今後の検討協議を行うことになりました。そして、去る11月20日に早速、同ＰＴの第一回会合が開催され、今後はソフト開発だけでなく、協議会内のインシデント全般に関する啓蒙活動も含めた取り組みをしていく方向で進みつつあります。

最後に、アンケート調査に御協力頂きました施設に感謝申し上げます。

新規加盟施設紹介

施設名　**病児保育室「トトロ」**

所在地　徳島市国府町桜間字登々路８番１
TEL：088-612-7795
http：//www.aiiku.info./

記入者名　（理事長）平岡 政弘　**定　員**　６人

開設日　2009年9月1日　**スタッフ**　看２人、保２人、その他

私が５年前に医院を開業して間もなく、ある患者さんのお母さんから「病児保育室を作ってください」と言われました。徳島でも女性の社会進出に伴って共働き家庭が増え、核家族化もあって、働く母親への子育てへの負担が大きくなっています。

今の日本では子育てのほとんどは母親の肩にかかっており、このような母親の負担を少しでも軽減するべく、要望に応えて、診療所の駐車場の一部を削って２階建ての病児保育室を立ち上げました。

「トトロ」という名前は「国府町桜間登々路」という地名から名付けました。

開設後、利用者は徐々に増加し、うれしいことに利用者から当初考えた以上に喜ばれています。

保育看護 DVD 紹介

保育看護の基礎はここからスタート。

保育看護の基礎知識をわかりやすく解説し、実践の場面を通して保育看護のポイントと注意点、遊びの計画・展開や工夫、保護者対応などを具体的に紹介してあります。

〔第一巻〕基礎知識編

◎病児・病後児保育の概念と理念
◎病児・病後児保育の概要
（タイプ・定員・対象児の年齢・保育時間・施設設備・職員構成など）
◎病児・病後児保育の対象となる病気や病状
◎病児・病後児保育における保育看護
◎病児・病後児保育の特徴
◎医療・保健・福祉との連携
◎事故防止と安全対策

監修：全国病児保育協議会
指導：ほあし子どものこころクリニック
副院長　帆足 暁子

〔第二巻〕実践編

◎病児保育室のデイリープログラム
◎１日のプログラムに沿って
・入室時のアセスメント
・保育看護のポイント
・遊びへの配慮
・生活習慣への配慮
・隔離室における配慮
・子ども同士の関わりのポイント
・家庭との連携
・地域との連携
・自己評価
◎保育看護の専門性

お申し込み先 お問い合せ先

新宿スタジオ　TEL 03-3379-1415

http://www.shinjuku-studio.com/ アクセス後 保育看護 検索

第8回 北東北 病児保育室交流会

9月26日(日)、秋田県にて「第８回北東北病児保育室交流会」が開催されました。25日(土)には、秋田市千秋公園内にある「あやめだんご」にて、「交流親睦会」も行われ、サックス演奏や田舎料理を楽しみながら、会員同士の親睦を深める機会を持つことが出来ました。交流会は、「午前の部」・「午後の部」の二部構成で行われました。

「午前の部」では、病院・病児室・保育園それぞれの現場より五名の先生方をお招きし、「提起講演」「保育の現場から」お話しをいただきました。「提起講演」では、各先生方の専門的な見識から考える病児保育のあり方や考え方などを、実際に起こった事件や事例を交えながらお話ししてくださりました。「保育の現場から」では、秋田県内にて病後児保育体調不良児保育を行っている保育所の先生方より、それぞれの地域における行政の取組と実践記録等をお話しくださいました。

「午後の部」では、３つのテーマに分かれ分科会が行われました。

第１分科会「子どもの病気に対峙する時の基本について考える」では、様々な病状の子ども達への対応、日頃困った様々な病気について、専門医の先生方より助言をしていただきました。第２分科会「病児保育室での工夫あれこれ」では、病児保育を行う専門者として、常日頃の何気ない気遣いや工夫の数々、病児との遊びや室内の準備物など、病児保育の最前線にいられる先生方より、お話しをしていただきました。第３分科会「病児保育の運営を考える」では、補助金や職員配置、地域や自治体・医師会等との連携について話し合いが行われました。全ての分科会において、真剣に参加する様子が見られました。

「北東北病児保育室交流会」は、病児保育関係者皆様のご参加・ご協力により成功裏に終えることが出来ました。この場をお借りしお礼申しあげます。本当にありがとうございました。

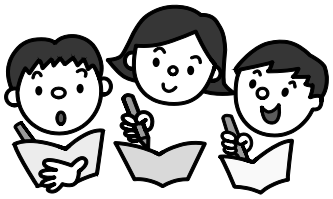
あおぞら乳児園 園長 **上村 清正**

第5回 大阪支部会総会

大阪支部の第５回総会は10月23(土)の午後、大阪市島之内の中央会館で開かれ、18施設から41名が参加。

総会は、総務報告と講演会の二部構成で、会計、事業、次期事業計画などの報告を受けた後、大阪支部の現況と22年度活動方針の説明がなされました。

支部の年次活動としては２度の定例会開催、病児(後)保育に就いての調査事業、機関誌の発行などを挙げることができます。支部の現況として、制度改編や



社会状況が施設運営に及ぼす影響や今回の制度改編、特に補助金体系の問題点、社会保障給付費に占める児童・家庭関連予算配分の矛盾についても言及され、施設の偏在や空白地域の存在とその解消への取組みなどが支部独自の課題として強調されています。

さらに全国病児保育協議会の現況に就いては、協議会の現状と課題、中央情勢、病児保育制度をめぐる厚労省の施策、制度改編に起因する問題点などともに、協議会の法人化に向けての取組み状況についても木野稔協議会会長から解説を受けました。

第２部は、小松病院の原田院長による「ワクチンで防げる病気(VPD)：ガラパゴスな日本の予防接種」という講演で、諸外国の予防接種スケジュールと大きく異なっているわが国独自の予防接種システムを「ガラパゴス」と表現。

Hib、肺炎球菌ワクチンなどの定期接種化が図られんとする中、ワクチン後進国と揶揄されている現状に鑑み、時宜を得た企画という感想を得ることができました。

大阪支部長 **浜本 芳彦**（浜本小児科）

第2回 四国ブロック研修会 in 香川

今年の四国ブロック研修会は香川県高松市にある『サンメッセ香川』で行われました。病児保育に携わっている方だけではなく、病児保育に興味がある方、地元の保育所の先生方、香川県、高松市の行政の方など、116 名の方が参加して下さいました。

まずは来賓挨拶の後、グループ討議を行いました。①感染症について、②発達、気になる子どもの接し方について、③食物アレルギーについて、④病児の遊び、おもちゃについて、⑤保育所における病児の対応について、⑥行政や他施設との連携について、という6グループに分かれて、リーダーの先生を中心に、現場に即した活発な討論が行われました。他の施設の様子もよく分かり、自分の施設を見直すよい機会となりました。

次は、講師に岡山県の青木内科小児科医院病児保育室「山陽ちびっこ園」青木佳之先生をお迎えして、特別講演「少子高齢化における病（後）児保育の役割と課題」を御講演して頂きました。医療現場・保育現場、それぞれが縦割りではなく、地域で包括的一体的有機的なサービスを提供するネットワーク（マネジメントサイクル）を構築し、地域で子どもと家庭を支えていくことが大切だとお話しして下さいました。

ランチョンセミナーでは「予防接種に関するレビュー」と題して、一般財団法人化学及血清療法研究所営業管理部学術第２課　宮崎圭一郎氏に、最近の予防接種の動向などについて御講演して頂きました。

最後に、シンポジウム「手をつなごう病児保育の未来へ～病児保育の現状と問題点～」を行いました。愛媛県 向田隆通先生、徳島県 水井三雄先生、香川県 飛梅董先生より各県の現状や問題点などの発表があった後、フロアーとの意見交換もあり、とても有意義な時間が過ごせました。来年は徳島県での開催が決定しています。

西岡医院病児保育室
「レインボーキッズ」 三好 和枝（保育士）

熊本支部総会報告

熊本支部の第７回の総会は、12 月５日 (日)、熊本県民交流館 パレアで開かれ、11 施設から参加がありました。

総会は、会計報告と現在の財務報告がなされ、次年度から、会計年度を４月から３月にすることや、予算案をつくり事業の実施計画を作ることなどが決まりました。

また、今年度は、役員改選のとしであることから、熊本県支部設立当初から、会長として大変ご尽力いただいた、熊本県玉名市のレインボールームの前田利為先生が、勇退され、NPO 法人チャイルドケアサポート みるくの理事長である、私、杉野が熊本県支部の支部長に就任することとなりました。

当日は、総会を挟んだ、午前の部に、北海道子育て支援ワーカーズの長谷川敦子先生が、「自分の子どもが病気の時、どんな人に預けたいですか？」～ワークショップを中心に～と題して、御講演をいただき、参加者が子どもが病気になった時の親の気持ち、病気になった時の子どもの気持ちになり、ワークショップを行い、「では、どんな支援者でありたいか」を参加者全員で論議するという貴重な体験をしました。

また、午後の部は、緊急サポートの取り組みを知るために、厚生労働省職業家庭両立課の相川武志様に、国の政策の取り組みをお話しいただき、熊本県内のたくさんの行政関係者や、ファミリーサポート関係者なども加わっていただいて、病児保育と緊急サポートの連携について論議しました。

参加者からは、病児保育と緊急サポートの違いがわからなかったが、今日の話しを聞いて、互いに連携していくことが、働きながら子育てをしている方たちの子育て支援に、大きな役割を担っていることが、理解できたという感想を得ることができました。

熊本支部長 **杉野 茂人**
（NPO法人 チャイルドケアサポートみるく 医師）

突撃！ 保育室のお昼ごはん

施設名：浅妻医院「パピールーム」
（京都府宇治市）
定　員：６名

当施設は今年 11 月で８年目を迎える医院併設型の病児保育室です。

病中・病後のお子さんをお預りする施設なので、利用されるお子さんの症状は様々です。入室後、一人一人の症状を把握し、可能な範囲でお子さんの希望も取り入れ、即座に献立を考えます。全て手作りで、アレルギーの有無に関わらず、市販の調味料は控え、生乳・卵・油は使用していません。

重症のアレルギー児では、お弁当を持参して頂くこともありますが、出来るだけ同じものを食べて頂ける様な工夫をし、お子さんたちが揃って、楽しく食べられる時間を大切にしたいと考えています。

治療には食事・水分補給が欠かせない為、保護者には看護師・調理師から症状に合った食事内容を詳しく説明させて頂き、早期回復のお手伝いになるよう心がけています。

献立の基本は、ご飯、味噌汁、おかず、デザートです。

今回の献立はこちら

【普通食】
ご飯、豆乳シチュー、豆腐ハンバーグと野菜の添えもの、バナナ

【胃腸疾患児食】
お粥、あんかけ豆腐、こふき芋、すりりんご

『突撃！保育室のお昼ごはん』では保育室の昼食をご紹介します。昼食のみならず、人気メニューや昼食に関すること、取り組んでいることなどのたくさんの情報をお待ちしております！

次号掲載の締め切りは**2月14日**です。宛先は、広報総務担当 岸本まで。

みんなにききたい！

Question

入室児童がいない時の過ごし方を教えて下さい！制作や壁面づくりの他に、みなさんどのようにされていますか？　（熊本 保育士）

Answer

◎普段出来ない所の清掃と事務的なことをすませ、その後は、スタッフと息抜きです。子育て中の主婦スタッフばかりなので、こんな日でない限りコミュニケーションが取れません。（兵庫 保育士）

※せっかく回答頂きましたのに、きちんと読めず…申し訳ございません！

◎医院併設型なので、病気についての知識や、先生が説明されることを見て、聞いて、感じるために、診療の介助に付いて、勉強しています。

◎書類の整理
（行政の書類、児童票の整理、ワクチン歴の更新など）
◎おもちゃの整理・消毒・おもちゃ作り
◎普段行き届かないところの室内清掃、窓ふき、玄関や周辺階段の掃除　（愛媛 保育士）

◎お便り（通信）の作成
◎併設の保育園の保育補助　（北海道 保育士）

☆ みなさまのご協力ありがとうございました ☆

次回のQuestion　キャンセルの取り扱いについて

利用予約をされていて、連絡無く無断キャンセルに…皆さんの施設でのキャンセルの方法、無断キャンセルの時の取り扱いなど、どのようにされていますか？
（愛媛 保育士）

日々の保育看護での悩みや他の施設ではどうしているのかなどのご質問や質問に対するご意見をお待ちしています！勤務地、職種をご記入の上、下記までご応募下さい。

郵便：〒080-0038 北海道帯広市西15条北４丁目2−7
FAX:0155-67-1141
E-mail:hinatabokko-kikitai@memoad.jp
「ひなたぼっこ」 常丸宛

常任委員会報告

平成22年9月20日、平成22年度第2回常任協議委員会が新大阪丸ビルにて行なわれました。出席者は24名。

以下、委員会議事の要旨です。

1．木野会長挨拶

病児保育へのニーズと各界からの期待が高まるなか本協議会の役割は益々重要になる、法人化を目指しておる所であり会員に対して透明性と公益性を高めた協議会運営を行っていかねばならない。という趣旨。その後、木野会長が議長、荒井宏治氏、大川洋二氏が議事録署名人に選出された。

2．委員会及びプロジェクト構成員が決定された。(詳細は、ニュース第57号参照)

3．各委員会からの報告

【研修委員会】

20回大会の反省の基づき、21回大会研修大会の計画をたてた。基礎研修は次回から60分とし、ステップアップ研修は1テーマにしぼる。21回大会では、基礎研修として、保育、看護、保育看護の分野で各60分、ステップアップ研修は病児保育に必要な医学知識の演題として、呼吸器疾患、息苦しさを訴える子どもの見方などを考えている。基礎研修テキストは2011年3月までに原稿を作成。

【広報委員会】

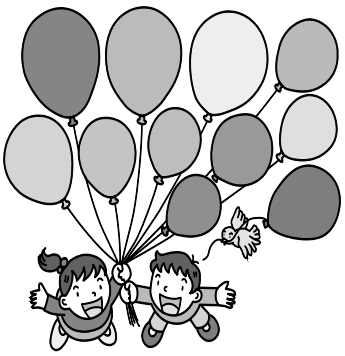
協議会ニュースは年5回発行予定。HPの充実も検討課題。各方面へのアナウンスを目的に、各学会への演題発表、ブース展示を行い、その様子をニュースにも掲載していく。

【調査研究委員会】

各種調査の回収率をあげ意義を高めるため、各施設には事前に調査予定や内容等についてアナウンスしておく必要がある。毎年、定期的な基本調査を行い、リアルタイムで厚労省へ働きかける必要がある。インシデント管理システムについては、向田委員をリーダーに、新たなプロジェクトを立ち上げていく。

【機関誌編集委員会】

機関誌「病児保育研究」60冊を日本小児科医会理事宛へ進呈した。その他関係機関にも贈呈する予定。



4．20周年記プロジェクトについて【法人化プロジェクト】【施設認証制度プロジェクト】【永年勤続表彰制度】について報告。永年勤続表彰制度についてはアナウンスを積極的にして周知する。

5．大会報告及び準備状況

東京大会の参加者は950人。アンケートでポスター発表がマンネリ化しているという声があり、今後生かしたい。黒字が出たので、協議会に寄付する予定。

大分大会は平成23年7月23・24日。時間も予算もコンパクトに行い、今後の開催につなげたい。一般演題はすべてポスター発表となる。

6．新規プロジェクトについて

感染症対策プロジェクトは大川常任委員が委員長となり、ガイドライン作成を目指す。20周年記念誌プロジェクトについては、藤本委員より原案が提出され、これを基に進める。

インシデント管理プロジェクトは、インシデントの重要性の取り組み、ソフトの開発などについての検証、今後の方向性をなど検討する。向田委員を中心に活動する。

7．保育園部会設置について　保育所型の協議会加盟が低いことから、加入の増強、病後児保育の内容向上と病児・病後児保育の役割分担と連携を目的に保育園部会の設置が定義され、賛成多数で認められた。

高橋委員を中心に進めていく。

8．支部活動について

支部およびブロック活動について　支部合同研修会補助金があるが、利用しやすいように、単県でも補助していく方向にする。

また、支部長の役割が上手く機能しているとはいえず、今後、情報伝達の方法や役割を見直したり、支部長不在の県については代行などの名称にしてお願いをする等、検討する必要がある。

第21回 全国病児保育研究大会 in 大分
ごあんない

究極の育児支援　病児保育のさらなる発展を目指して
～誰のために、何を求めて～

日　時　**2011年7月23・24日　12:30～**(予定)

会　場　**iichiko総合文化センター**
(メイン会場：音の泉ホール)

一般演題　全てポスター発表とします。

特別講演　**松井　猛** 氏　野生猿で有名な高崎山自然動物園の元案内係で日本猿の研究家

教育講演　**上野行良** 先生　福岡県立大学人間社会学部および大学院人間社会学研究科教授

杉村太郎 氏　保育士。現在は児童養護施設勤務。
2004年から約3年半、カンボジアで「ゴミ集積所周辺に暮らす家族のための生活向上支援プロジェクト」に従事。

懇親会　大分全日空ホテルにて大分の山の幸、海の幸を食しながら、全国の仲間と和やかなひと時をお過ごしください。

＊学会日程は、現在調整中のため次号までお待ちください。

学会広報報告

～日本保育園保健協議会に参加してきました～

2010年10月30・31日
大阪大学コンベンションセンター
参加者数／665名

◆広報形式◆
◎ポスター展示
◎リーフレット
◎ニュース56・57号
(各30部)

編集後記

新しい年を迎え、ニュースをリニューアルいたしました。
これからもホットな話題や情報を、全国の会員のみなさまにお届けし、頑張る施設を応援します。ニュースに関するご意見、アイデアがありましたら、是非広報総務までお寄せ下さい。
広報委員がみんなで知恵を出し合ってよりよいものを目指し尽力しています。次号もお楽しみに！　(神原雪子)

【ニュース57号のお詫びと訂正】

6ページ 加盟施設紹介
誤 →『研和会』おひさまはるる
正 →『健和会』おひさまはるる

8ページ 広報委員会のメールアドレス
誤 → kohitsuji　正 → kohituji

訂正してお詫びいたします。

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

〔広報委員会総務〕
〒577-0802 大阪府東大阪市小阪本町1-11-3
医療法人あおぞら会 ふじもとクリニック
病児保育室こひつじ　岸本 範子 宛
TEL:06-6730-5828　FAX:06-6730-5828
E-mail:kohituji@fujimoto-clinic.org

〔全国病児保育協議会事務局〕
〒535-0022 大坂市旭区新森4-13-17
社会医療法人真美会 中野こども病院
TEL:06-6952-4778　FAX:06-6954-8621
担当:薮田・堀込
http://www.byoujihoiku.ne.jp

Printed by AIOIHA